

# 平成17年度事業計画書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構

## [基本方針]

社団法人医療系大学間共用試験実施機構の役割と使命は、医学・歯学等の医療系大学において、態度・技能・知識についての評価試験を実施し、学生の段階から医療人としての適性と能力を全国的に一定水準に確保することにある。このために、医学・歯学等の専門領域ごとに大学・学部等間で共通の評価試験を実施するとともに、評価基準と成績の向上を目指すことにより、広く一般社会の理解と協力を得ながら、国際的にも遜色のない優れた医療人の育成に貢献しようとするものである。

この基本方針を達成するため、下記事業を実施する。

## [主な事業]

### 1. 共用試験CBT関連事業

- 平成14年から医学系および歯学系の共用試験の試行により蓄積されたプール問題を用いて、ランダム出題方式による知識についてのコンピューターを用いた客観試験（以下CBT）を実施するための組織基盤の強化を図り、医学系と歯学系大学においてCBTを実施する。
- 試験問題と試験成績は本法人において厳重に管理し、詳細な統計分析を行うための組織体制とシステムを整備し、学生のCBT試験成績を各大学ごとに返却するとともに全体成績および分析結果を公表する。
- CBT用プール問題の蓄積と入れ替えのために各大学に新規問題作成を依頼し、本法人でブラッシュアップ作業を行う。また、法人組織において新規問題を作成する。試験実施後に試験問題の評価を行い、優れたCBT問題の継続的な蓄積を行うためのシステムを整備する。

### 2. 共用試験OSCE関連事業

- 本法人組織において、各大学の客観的臨床能力試験（以下OSCE）の準備状況と共用試験OSCEの試行結果を参考にして医学と歯学のOSCE項目・評価表・評価基準等の標準化を進め、OSCE実施のための組織体制とシステムを構築する。各大学の実施体制の改善を支援するとともに、OSCE実施日程を調整し、OSCE実施に関する大学間の協力を支援する。
- 各大学から提出されたOSCE成績をもとに全体の成績と統計処理結果を公表する。また、OSCEの標準評価者の育成を図る組織体制を確立する。

### 3. 調査研究・開発事業

#### 1) 調査研究事業

- 臨床実習開始前の共用試験は、既に公開されている医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠している。CBT問題作成およびOSCE評価基準作成にあたって、モデル・コア・カリキュラムの導入状況、コア・カリキュラム内容等との共用試験内容の整合性について、各大学を対象とした調査研究の方法を検討する。とくに臨床実習の診療参加型への転換状況を把握するための調査方法を検討する。
- CBT試験問題の形式と内容およびOSCE 課題と評価方法の改善のための調査・研究を行う。
- 共用試験の実施が予想されている薬学系等他の医療関係領域や、学習の種々の段階および卒業時の共用試験による評価の在り方等についての調査研究方法を計画する。

## 2) 開発事業

- CBT問題作成および問題修正ソフト、システムチェックソフト、試験実施ソフト、成績管理ソフト等についての継続的な改善を行う。CBTについてはランダム出題による不公平を解消するために難易度自動調整システムの研究開発を行う。
- 各大学におけるCBT実施用サーバーおよび端末等の状況に応じて、必要なソフトを開発する。OSCE成績評価ソフトを改善するとともに、CBTとOSCEの試験成績を統合して一括管理するシステムの改善を行う。
- 将来にわたって共用試験を安全かつ簡便に実施し、成績の管理・返却を迅速に行うための電子化システム開発のための調査研究を行う。

## 4. 研修・出版・広報活動事業

### 1) 研修事業

- 平成17年度からの共用試験の正式実施までに約8,000題（医学系）、6,000題（歯学系）の良質なCBT問題を蓄積できる予定である。しかし、CBTを安定的に実施していくためには、常時3～4万題の良質な試験問題のプールとその継続的な入れ替えが必要である。このために、大学教員の問題作成能力の向上を目指して問題作成ワークショップを開催する。
- OSCEの標準的な評価を行うためには、一定水準のOSCE評価者の育成が不可欠である。このために、OSCE評価者育成ワークショップを開催する。
- 共用試験の円滑な実施のための事務系職員を対象とした研修・講習会を開催する。

### 2) 出版・広報活動事業

- 学生・教員がCBTの内容を理解するために例題集を発行しているが、さらに学生の学習の参考とするためにCBT例題集の内容を充実させた改訂版（平成17年度版）を発行する。
- OSCEへの理解を深めるための標準課題・評価法を解説する案内書を刊行する。
- 共用試験の導入に至った経緯、意義、経過を含めた「共用試験」案内冊子をすでに発行しているが、正式実施に向けて改訂版（平成17年度版）を発行し、学生、医療系大学の学部・専攻科等の教職員および医療関連機関や一般社会等へ配布する。

- インターネット・ホームページURL <http://www.ajmc.umin.jp>を通じて、社団法人としての研究資料収集や事業活動の情報公開・提供の促進を行うための組織体制を整備する。また、参加各大学・学部等との専用情報連絡網を構築する。

## 5. 国際協力事業

- 平成14年10月に英国で日英医学教育会議が開催され、試行段階における共用試験の内容が報告された。平成17年度には第2回日英医学教育会議が日本において開催される予定である。この会議のために共用試験CBTについての情報交換内容を整理して準備する。
- 上記の日英情報交換および、国際的な情報発信のために、共用試験の前提となっているモデル・コア・カリキュラムの英文化およびCBT例題集の英文化作業を進める。

## 6. 社団法人組織・活動の基盤強化をはかる事業展開

設立初年度であることから、社団法人としての組織・活動の基盤強化を図るために、理事会・運営委員会を核とした活動を推進する。そのために運営委員会の下部機関として次の委員会を設け、基盤強化を図る。必要に応じて共用試験事業部等を置く。

- 1) 共用試験実施委員会,
- 2) 共用試験事後評価委員会,
- 3) 共用試験実施管理委員会,
- 4) 共用試験制度・システム開発委員会,
- 5) 広報・推進委員会